

# 連合長野

〒380-8545 長野市県町532-3 労働会館3F TEL 026-234-1626 FAX 234-1349  
E-mail info@nagano.jtuc-rengo.jp http://www.rengo-nagano.jp/  
フェイスブック https://www.facebook.com/rengonagano/



2020.4  
号外

発行／日本労働組合総連合会  
長野県連合会  
発行人／小松 豊



力合わせよう！  
心つながよう！  
働く仲間の笑顔あふれる未来をつくらう！

## 第91回メーデーを迎えるにあたって

今年は、100年目の節目を迎える第91回メーデーを迎えます。本来であれば、5/1長野県中央メーデーおよび県内13地区の地域に根差したメーデーを開催し、14,000名を超える働く仲間一人ひとりの真剣なまなざしと想いを結集し、働く者の連帯、働く者の声の重要性を広く社会に訴えるメーデーを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大阻止の観点から、内容を変更し実施することとなりました。

### ■想いを語り継いできたメーデー

日本では1920年5月2日に第1回メーデーが東京・上野公園で開かれ、1万人ともいわれる労働者が8時間労働制や最低賃金法の制定などを訴えました。途中、弾圧を受けて開催できなかった時もありましたが、先輩方の想いと運動を受け継いできた記念すべき100年目のメーデーとなります。常に働く者のさまざまな不安に向き合い、労働者の地位や労働条件の向上、権利拡大をはじめ、人権・労働基本権の確立、民主主義の発展、恒久平和の希求に深く貢献し、連帯と団結を高めてきた100年間です。「8時間は労働、8時間は睡眠、そして残り8時間は自分たちの自由な時間のために」というメーデー誕生当初の主張は、いまでも語り継がれています。

### ■メーデーの歴史が物語っていること

1946年、戦後初めて行われた第17回メーデーのスローガンは「働けるだけ喰わせろ」。100年のときを経て、働く者を取り巻く環境は大きく変化し、今また私たちは様々な困難や



難題を抱えています。歴史が物語るもの、それはどのような時代であろうとも、働くものの立場に立った「豊かに生きる」を追求し、その実現に向けてみずから行動を起こしてきたということではないでしょうか。急激な変化に誰もが直面する今の時代、この間に積み重ねてきた「働く者の連帯の力」で、時代を切り拓くのは私たち自身であるという自覚をさらに高め、行動に移していくならば、どのような状況も乗り越えていくことができるはずです。

### ■多くの仲間をつなぐ第91回メーデー

多くの組合員や働く仲間を集め、想いを結集し、社会に広くアピールしていくこと、その影響力を行使していくという行為こそが、労働運動の根幹であることを、決して忘れてはなりません。第91回メーデーは多様な参加の形を通じて、働く仲間の決意を固め合い共有したこ

とを、各組織で、各地域で多くの働く仲間の皆さんとの連帯につなげていく必要があります。

## ■未曾有の困難に奮闘する大勢の仲間

私たちはこれまで経験したことのない困難に直面しています。とりわけ、昨年の台風災害からの復興・再生、新型コロナウイルス感染拡大阻止は、働く者・生活者の命と健康、そして当たり前の雇用・生活が脅かされる危機であり喫緊の課題です。春季生活闘争、働き方改革、自然災害や新型コロナウイルス感染症拡大阻止等、今まさに多くの仲間が正念場の交渉・行動を懸命に展開し、一つひとつの安心につなげるため奮闘中です。

## ■高まる労働組合の存在と役割

先行き不透明で社会を不安が覆うこんな時だからこそ、雇用・暮らしのセーフティネットを確実・迅速に機能させなければなりません。このような状況のなかで、より大きなしわ寄せを受ける働く者・生活者の声に寄り添った対応ができるのは労働組合しかなく、その重要性や存在意義はさらに大きくなっています。

## ■これからの社会を支える労働組合

その一方、働く仲間の多くの職場には労働組合が

ありません。県内8割以上の雇用労働者は、切実な声や実態、悩みに向き合う拠り所、そして当たり前のように労使が話し合う場がないところが多いのです。働く者の活力と人への投資がなければ直面する危機を乗り越えることはできません。これまで発揮してきた、「助け合い」「支え合い」「分かち合い」「絆」「連帯」といった行動規範こそ、これからの社会を支える価値観として重視されるべきです。すべての働く仲間を守り、働くことを軸とする安心社会を創り出していくためにも、声をあげ社会に発信し仲間を増やしていく必要があります。

## ■すべての働く仲間へ希望の光を

依然として不安定な雇用や低処遇の状況に悩まされ続けている仲間も多く、立場の弱い労働者が苦境に陥り、当たり前の雇用や生活も脅かされています。貧困や格差が拡大し、一強におごり民主主義が危機に瀕する今だからこそ、改めてメーデーの原点や信念・意義を共有し、それを隅々まで波及させていかなければなりません。そのためにも、これを成し遂げる主役は、すべての働く者、働く人たちであり、一人ひとりが声を上げていくことが重要です。今こそ私たちが先頭に立って、一つでも多くの希望の光をすべての働く仲間に向けていきましょう。

### チャレンジ!

#### □の言葉を埋めてみよう!

**q1** メーデーは、英語で書くと“May Day”。古くからヨーロッパでは「□□の訪れを祝う日」とされ祝日とされてきたが、低賃金と長時間労働に苦しめられていた米国の労働者が□□□□ストライキ(全国的な規模で行われる労働争議)を行ったのが1886年の5月1日で、翌年以降も5月1日にゼネストを実施した。

**q2** この動きが世界の労働組合に広まり、1890年5月1日に第1回国際□□□□が多くの国で開催されたことを契機に、労働者たちが集まり、権利を主張する日として、ヨーロッパをはじめ各地に広がった。これが今に続く「労働者の□□□□」としての起源となった。



〈ろうきん・こくみん共済 coop〉が暮らしを応援!



**q3** 戦後日本で初めて行われた1946年メーデーのスローガンは「働けるだけ□□□□」

**q4** 現在はメーデーを知らない人も出てきているが「8時間は労働、8時間は□□□□、そして残り8時間は自分たちの□□□□な時間のために」というメーデー誕生当初の主張は、いまでも語り継がれている。

